

～病院と皆様との架け橋～

杏雲堂

Vol.03 2017.09.30発行

特集

- ・杏雲堂病院の特色ある治療法紹介～婦人科～
- ・症例検討会～第1回～

連載コーナー

- ・Dr.コラム（麻酔科：楳田浩史）
- ・とくするお薬の話（薬剤科：大谷道輝）
- ・部門紹介（6階：地域包括ケア病棟）
- ・入院中の食事紹介（栄養管理科）
- ・竹重事務部長の“映画道”

さまざまな職種のスタッフが一堂に会して行う、病棟カンファレンスの様子。

患者さんの思いに トップクラスの看護で応えたい

伝統ある杏雲堂病院で働く私たちは、「あたたかく看守るゆとりの看護」という看護理念のもと、患者さんの個別性を尊重して心に寄り添う看護をおこなっています。中規模だからこそできる『きめ細やかな看護』は、地域の皆様から信頼される看護です。

私が看護師として、大切に思つていることは「やさしさ」です。

「杏雲堂の看護師さんはやさしい」というお褒めの言葉こそが、私たち看護師のよろこびであり、私の自慢です。「やさしさ」は、自身の心にゆとりがないとできません。

「よく働き、よく遊べ」をモットーに、笑顔と情熱をもつて看護に取り組み、やりがいを感じられる看護が提供できるよう努めています。

【看護教育】

今年は、「高齢者看護」と「がん看護」に重きをおき、教育プログラムを立てました。がん看護の専門性を高めるためのコースや認知症ケアコースなど多角的な視点をもつて看護が提供できるよう構築されています。看護に熱い思いを抱く看護師一人ひとりが確かなキャリアを積み重ね、あらゆる分野で力を発揮しています。

【専門性の発揮】

がん患者さんに寄り添う「緩和ケア認定看護師」「がん化学療法看護認定看護師」、感染対策や環境問題にも取り組む「感染管理認定看護師」が、多職種と協働して活躍しています。



今月の
ひとこと

看護部長：梶原洋子



神田駿河台で135年、地域とともに杏雲堂病院



横田 浩史 (まきた こうし)
杏雲堂病院 麻酔科部長
東京医科歯科大学名譽教授
麻酔科指導医

家族の麻酔

麻酔科：横田浩史



外科医は身内の手術を執刀しないとよく言われます

その理由として「冷静な判断を保てない恐れがあるから」と言われています。私は麻酔科であり外科医ではありませんので執刀はしませんが、身内に何度か麻酔をかけたことがあります。そんな時いつも考えていることは「特別なことをしないでいつも通りやる」ということです。普段から常に一番と思うことをしていれば、どんなときにも普段通りの麻酔ができ判断を誤ることはないと考えているからです。

約30年前の話ですが、娘が3歳の時にばね指になり、マッサージなどで手を尽しましたが、改善せず手術となりました。8か月～8歳ぐらいの子供は麻酔のときコミュニケーションがとり難く、麻酔に手こずることがよくあります。

昨年まで大学病院に勤務しておりましたが、その当時、元総理大臣、大臣、一流企業の社長などの著名な患者さんの麻酔を担当する機会がありましたが、常に平常心で麻酔を実施し無事に手術を終えることができました。これからも常に安全で安心な麻酔を心がけ、患者さんの不安と痛みが最小限になるように努めていきたいと思っております。

にきひの薬を飲んで自動車を運転してはダメ！

花粉症治療薬の「抗ヒスタミン薬」には多くの種類がありますが、半数以上が運転してはいけないが注意する必要のある薬」「運転してはいけない薬」です。



大谷 道輝 (おおたに みちてる)：診療技術部長・薬剤科長

杏雲堂病院Dr. コラム <第3回>

在宅の立場から… 患者さんとご家族の、より良い明日を考える 症例検討会

対象：地域医療従事者 講演&ディスカッション

2017年8月2日 18:00～ 佐々木記念ホール

第1部：「がん患者さんのリハビリテーション」演者：内野寿則（リハビリテーション技術科科長）
第2部：「化学療法抵抗性の若年性乳癌～終末医療を中心に」演者：佐々木政興（腫瘍内科医師）

5月に開催された「医療連携のつどい」にて、「病院と在宅で行われる医療について意見交換を行う場が欲しい」との熱い要望を受け「乳癌」をテーマに「症例検討会」を開催する運びとなりました。内容は、癌を患った母親が終末期を迎えるにあたって、子供（小学生）やご主人に対する告知のタイミングがポイントとなり、活発な意見交換が行われました。

在宅側の意見として「もうと早く在宅に戻れるタイミングがあったのではないか」「患者さん1人で病気と闘うのではなく、家族へ告知する方向に促す事ができたのではないか」等、在宅視点での貴重なご意見を頂戴しました。今後も継続的に開催し、地域の皆様と患者さんを支えるため努力して参ります！

定例意見交換企画
「症例検討会」がスタートしました



【ご参加いただいた皆様】

看護師・ソーシャルワーカー (MSW/PSW/SW)・相談員・理学療法士・学生 他、さまざまな職種の方々にご参加いただきました。（病院職員含む合計21名）

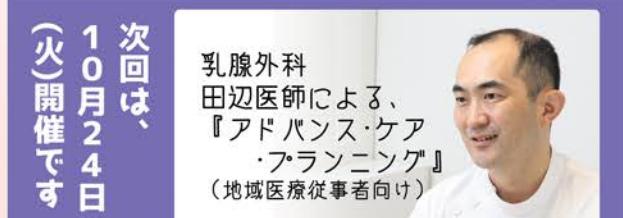
【ディスカッション内容】

当院患者さんの実例と対応を挙げ
ディスカッションを行いました

第1部：当院での、がんリハビリテーションについてのご紹介



第2部：がん患者さんへの治療と、病状や心の動きを例に病院/在宅の立場からの意見交換

次回は、
10月24日
(火)開催です

～けいれん症状が出現する患者さんの例～
病状急変を考えると在宅は不安・・・
退院するのが怖い・・・

＜ご意見抜粋＞
・ひとつひとつ不安を取り除けるよう、病院と在宅スタッフの連携を図ることが必要。
・早いうちに、病気への思いや感情を伺ったり別の立場の方からの情報を統合し、みんなで支えていくのが大切。

～お子さんへの伝え方に悩む患者さんの例～
子どもに病気を伝えた方がいいのか？いつ？どのように？

～ご意見抜粋～
・お子さんへの伝え方が分からない方も多いため、サポートが必要と感じている。
・お子さんとの時間を確保することは大変重要なことで、早目に伝えられるよう、積極的な働きかけも必要。

～栄養管理科PRESENTS～

今月の献立 PICK UP 第2章

献 立

ねぎとろ丼 白和え 冬瓜の吉野煮
おくらお浸し 味噌汁

栄養成分

エネルギー	580kcal
たんぱく質	22.9g
脂質	19.3g
塩分	3.0g

くいしんぼう渡辺
連携室広報誌担当
(弁当男子)
好きなすしネタ: えび

くいしんぼう齊川
広報誌編集長
(主婦歴10年)
好きなすしネタ: つぶ貝

マグロにはEPAが
豊富に含まれており、
EPAには血中中性脂
肪を正常に保ち、動脈
硬化や高血圧症を予防
する効果があります。
たたきで食べることで
損失されることなく摂
取する事ができます。

また、冬瓜、オクラ
にはカリウムが豊富に
含まれています。カリ
ウムは塩分などのナト
リウムを過剰摂取した
とき、余分なナトリウ
ムの排出を促してくれ
る効果があります。

（齊川）
個人的に好きな白和えも
嬉しい一品。ゴマ風味の
効いた、なめらか豆腐の
和え衣で箸が進みます！
(渡辺)
味噌汁の中に入っている
ナスの皮が剥いてあって、
手間と愛情を感じるな。
実は野菜の中で、ナスが
一番好きなんだ。

（齊川）
オクラにイクラも新発見
メニュー。見た目も鮮や
かでイイネ！
(渡辺)
冬瓜もやさしい味で、全
体的に自分では、手間が
かかるて作らない料理ば
かりだから、和食屋さん
の、こだわりランチを食
べた気分。

（渡辺・齊川）
美味しかったです。
ごちそうさまでした。

**栄養科からの
食事説明**

栄養管理科
坪倉・楠山

くいしんぼうの食レポ



憂慮すべき実態

ううん、困った。今回は取り上げる映画を予め決めていたのに、死ぬということ」。是非とも取り上げたかったのだが、観る術がないことが分かり、愕然としている。近くのTSUTAYAに置いてない。他人を回ったが、どこにもない。調べたら、何とDVD化されていないことが判明。今時、VHSのテープなんてどうやつて手に入れる? 何たるスキャンダル!

予定がすっかり狂つて意気消沈。今さら他の映画に変える氣にもなれず、今月は愚痴と映画について自由に書かせてもらおうと聞き直つてしまつた。どうかお許しを。

「病院で死ぬということ」は山崎章郎の原作そのものが有名で、看護師の面接時に、何度も影響を受けた本として語られることが多い。映画は市川準監督の傑作として、公開当時、絶賛された。キネマ旬報ベストテンの第3位。あいにく当時は観ておらず、この連載を決めたときから、取り

仕方がないので、映画にまつわるエピソード。僕が本格的に映画にめりこんだのは高校時代。映画好きだった兄の影響を受けて、松本市内の2軒の映画館にしばしば通つた。一番観まくつたのは大学時代。当時、京都に祇園会館という3本立ての名画座があり、そこに入り浸つていた。3本立てを2回ずつ観るので、1日に6本。朝の9時過ぎに入つて、出てくるのは夜の10時過ぎという無茶なことを繰り返していた。映画は映画館の中になると、さすがに映画館には足を運べなくなる。名画座があるのだが、映画は映画館の大スクリーンで観なければという信念をもつていてただけに辛かつた。それでも映画を観たい僕は、VH

Y Aで病院を描いた映画は色々と探したら、対象作品がほとんどないといと判明。病院や医療スタッフを主人公にした映画は数多く作られたが、観ることができなければどうしようもない。途方に暮れてしまつた。羊頭狗肉を決め込んで、「映画に描かれた病院を斬らず」に一般的な映画に切り替えてしまおうかとの誘惑に駆られている。

どうしたものか。

映画はいつから見始めた?

仕方がないので、映画にまつわるエピソード。僕が本格的に映画にめりこんだのは高校時代。映画好きだった兄の影響を受けて、松本市内の2軒の映画館にしばしば通つた。一番観まくつたのは大学時代。当時、京都に祇園会館という3本立ての名画座があり、そこに入り浸つていた。3本立てを2回ずつ観るので、1日に6本。朝の9時過ぎに入つて、出てくるのは夜の10時過ぎという無茶なことを繰り返していた。映画は映画館の中になると、さすがに映画館には足を運べなくなる。名画座があるのだが、映画は映画館の大スクリーンで観なければという信念をもつていてただけに辛かつた。それでも映画を観たい僕は、VH

上げたい筆頭格であった。「名作」を「斬つて」みたかったのだ。それを観ることができない。

それだけではない。TSUTAYAで病院を描いた映画を色々と探したら、対象作品がほとんどないといと判明。病院や医療スタッフを主人公にした映画は数多く作られたが、観ることができなければどうしようもない。途方に暮れてしまつた。羊頭狗肉を決め込んで、「映画に描かれた病院を斬らず」に一般的な映画に切り替えてしまおうかとの誘惑に駆られている。

どうしたものか。

S、LD、DVDと媒体を変えながら、ソフトを買い漁り、毎晩深夜に一人で観入つていたものだ。

ギンレイホールに大感謝

今年の年明けから杏雲堂病院でお世話になつてている僕が、嬉しくてまらないのは、病院を取り巻く周囲の環境。怒られてしまうが、医療の話ではない。僕は本も大好きなので、この日本一の書店街には心ときめく。だが、何と言つてもギンレイホールの存在だ。ギンレイホールは飯田橋徒歩5分の都内でも数少ない貴重な名画座。病院からドアツードアで15分もかかりない。ここに毎週のように仕事を帰りに通い詰めるのが、僕のエネルギー源である。

ここは2本立ての名画座で、公開の約4ヶ月遅れで上映されるので、比較的新作揃いなのである。そして嬉しいのは「パスポート」の存在。年会費1万円で何時でも自由に観られる優れものだ。僕の知る限り、日本で唯一ではないか。

1月入職時に即座に会員となり、以来、全ての作品を観ている。やっぱり映画は大スクリーンで観るために限る。特筆すべきは、独自の哲学に裏付けられた上映作品の質の高さ。わずか9ヶ月間の間に、生涯のベストワンとも呼びたくなる感動的な作品に3本も巡り合つた。これらについて語りたくてたまらない。次回はどうしてもそれを認めていただこう。

外来のご予約

外来予約センター電話番号
03-3292-2058（直通）
予約受付時間
月～金・9:00～17:00
土・9:00～12:00

検診のご予約

検診センター電話番号
0120-132-051（フリーダイヤル）
03-3292-0551（直通）
予約受付時間
月～金・13:00～16:00

患者さんご紹介等

地域連携室連絡先
TEL:03-3292-2054（直通）
FAX:03-3292-1300（直通）

<編集後記>

前号の特集で取り上げた「手洗い」は、病院に限らずご家庭でも有効な感染予防手段ですが、本来、手洗いとは30秒以上かけてせっけんをしっかりと泡立てながら隅々まで洗う必要があります。これは大体「ハッピーバースデートゥーユー」2回分の長さになるそうです。

研究発表によると、スマートフォンには便器の18倍もの細菌が付着しているそうです。正しい手洗いを習慣化してしまうことをお勧めします。（平良）

杏雲堂 Vol.03

発行：杏雲堂病院 広報委員会

発行日：
2017年09月30日